



園芸作物栽培に関する

これからの対策

Q&A

4月の気象と農作業

今冬は56豪雪に次ぐ大雪となりましたが、2月下旬からは例年より暖かく推移し、気象台は3月7日に積雪がなくなると発表しました。今後、気温はやや高め、降水量と日照はほぼ平年並みに推移すると見込んでいます。雪解け後はまず圃場の表面排水を行い、土壌水分の低下を図りましょう。圃場に乾きが感じられるようになったらシマンダイセン水和剤など殺菌剤の散布と「そさい3」または「野菜の達人」が「ミネ液肥」など水に溶けやすい肥料を300〜500倍に希釈して与えましょう。降雨前に土壌表面にパラマキを行う方法も省力的です。

また、春先に注意しなければならぬのが強風による被害です。3月から4月にかけては台風シーズンに匹敵するほどの強風や突風が吹きやすく、苗が飛んで行ってしまうなど思わぬ被害を受けまです。大雪報道の陰に隠れていましたが、3月1日の強風は3月としては41年ぶりの強風となっています。天候の変化には注意して野菜の管理には抜かりのないようお願いします。

◎作物別管理

○ジャガイモの植付け

例年お彼岸を過ぎると植付けが進みますが、本年はまず土壌水分の低下を待つてしっかりと畝を作りましょう。芋は意外と呼吸量が多いので深植えしたり、空気層の少ない土壌に植え込んだりすると芽出しも遅く生育も不良になります。なお、マルチ栽培をするに地温の確保も

アヅミン苦土石灰

土壌酸度矯正として石灰質肥料を散布しますが、熟畑では石灰散布量もさほど多くは必要としない場合があります。アヅミン苦土石灰は堆肥の主要成分である腐植酸を石灰に吸着させた資材で堆肥施用の効果も併せ持つ資材です。1a当たり6〜8kg施用します。



でき、かつ土寄せも省略できるので特に今年のような気象のもとではお奨めします。その他の事は先月号を参照してください。

○タマネギ・ニンニクの手入れ

今冬は大雪となり、排水の悪い圃場、除雪の雪が乗った圃場、苗が小さかった圃場では苗が腐ったり消えたりしてしまつたケースも少なからずありました。今後は表面排水の徹底とこまめな追肥、殺菌剤の散布を行い生育促進につとめましょう。

○その他の越冬作物

イチゴは寒さには強いので消えることはほとんどありませんが排水不良と雪の重さで土の圧密が進み生育に影響が出ます。少量ずつこまめに追肥しましょう。ソラマメは元々寒さには弱いので、まずは追肥・中耕を行い茎部の保護を図りましょう。

○春蒔き野菜

大雪にも関わらず意外と消雪は早く、気温もやや高めに推移していますのでサクラの開花もさほど遅くはならないかと思えます。植物は自然のサイクルに沿って活動しますので、これまで通り種の蒔き始めはサクラの開花始め頃からとしましょう。播種後は夜間の保温に気を配ることがコツとなり

窓辺の育苗

トマト、キュウリなど果菜類の苗作りの播種も家庭菜園であればやはりサクラの開花時期以降に播種します。これらは寒さに弱いので室内の明るい窓辺を利用して行います。ウリ科は40日ほど、ナス科は50日ほどかかります。



ソラマメの手入れ



ソラマメは葉が黒変して枯れても茎が残れば再生してきます。株元に土を盛って保護してやりましょう。



大門 優
園芸アドバイザー

お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農生活課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。

ます。ハウスがあれば申し分ありませんが、露地の場合雨よけを兼ねてトンネルをしてやるか、冷え込む夜間は室内に取り込む、夕方以降の水やりはしないなど気配りをしましょう。

◎春夏野菜の定植準備

春夏野菜の定植はツツジの開花始めて4月下旬になります。圃場の準備は4月上旬からとなります。石灰散布は肥料散布の1週間前まで、肥料と土壌混和剤の散布、畝立ては地温の確保も考えると植付け1週間前には終えておきたいものです。堆肥の散布は「工」堆肥など既製品や完熟品なら石灰か肥料散布時に混和すればよいのですが、完熟していないものは1ヶ月以上前に土壌混和しておく必要があります。植付け予定からさかのぼって準備を始めましょう。

○土壌混和剤について

以前にも紹介しておりますが土壌施用の農薬として、土壌害虫を防ぐダイアジノン粒剤など土壌処理剤と苗をアブラムシなどの虫害を回避するダントツ粒剤など植え穴処理剤があります。これらを混同して処理方法を間違えると所定の効果が得られません。(2007年12月号を参照してください。)

近年、ハウスを中心としてネコブや青枯れの発生など土壌病害の発生が多くなっています。対処の基本は優良堆肥の連続投入によって土壌微生物相を豊かにし、特定の病害菌の蔓延を回避することですが、汚染の程度がひどい場合にはガスタード粒剤などで土壌消毒を行う必要があります。施用には注意が必要ですのでJAにご相談ください。

◎ハウス管理

3月から4月にかけてはハウス内外の温度差が非常に大きい時期です。出入りする農家も体の負担が大きくなりますが野菜の温度管理も充分注意しなければなりません。温度の低いのは生育が遅れるだけです。温度の高い方、特にハウス内の温度が45℃を超えまると野菜はゆだつて枯死してしまいます。ハウスが閉め切つてあると晴天日の日中はわずかに30分位で危険な温度に達してしまいます。特に育苗期間中は僅かの油断で大きなダメージとなります。最高最低温度計を設置しチェックは欠かせないようにしてください。

育苗期の高温障害



春は天候の変化も早く、晴れると瞬く間に高温になります。

カイガラムシの防除

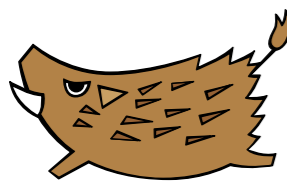


カイガラムシは殺虫剤もなかなか効かず見た目も悪いので多くの人困っている害虫です。歯ブラシでこすり取るのがベストですが木が大きいと無理です。薬剤防除では5月下旬〜6月上旬の繁殖期に発生する口ウをまどっていない幼虫を退治するのが望ましい。農業としてはスプラサイド乳剤やアプロード水和剤を使います。ホームセンターではカイガラ虫用 殺虫スプレーも販売されているようです。

また場所にもよりますが高圧洗浄機のジェットの勢いでカイガラムシを吹き飛ばす方法もあります。充分手が届く場合は50〜60℃のお湯をかけるのも効果がありますが葉が出ていないときに行いましょう。

◎獣害について

山間部では年々獣害がひどくなっています。今冬は大雪でイノシシが少なくなるのではないかと思われていますが、気象台のデータでは積雪1mを超えていた期間はわずか1週間でした。イノシシが飢えるような状況にはなく、出没もますます増加の傾向にあるのではないかと思われまです。例年以上に対策をしっかりと行つてください。



倒壊ハウスの撤去

倒壊したハウスの撤去を自前で行う場合は、パイプに無理な力がかかっている、作業中に跳ね上がりなどが発生し負傷する危険性があるので、作業にあたっては留意して慎重に作業を進めてください。

